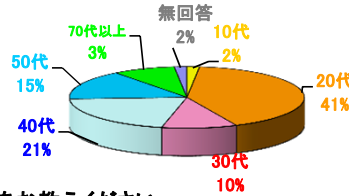
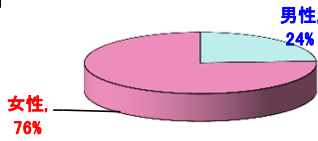


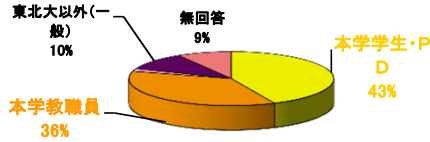
# 第10回東北大学男女共同参画シンポジウムでのアンケート集計結果

上記シンポジウムに参加された方々に、今後のシンポジウム開催の参考とするため、内容等に関してアンケートで伺った。参加者約118名のうち、58名の方から回答をいただいた。

**Q1** あなたの性別と年齢をお教えてください。

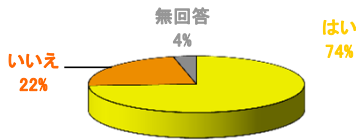


**Q2** ご職業(もしよろしければ、会社名、職名も)をお教えてください

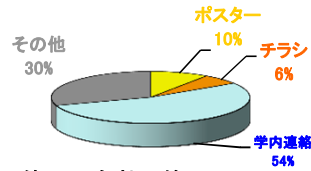


一般(アンケート記載分):  
他大学教職員、他大学学生、企業

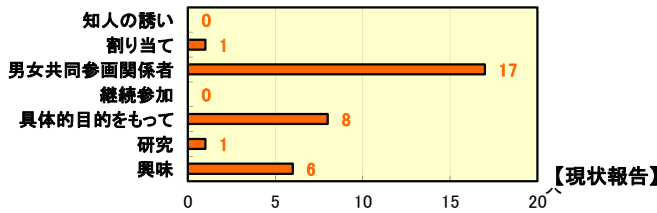
**Q3** これまでに男女共同参画について何かご存知でしたか。



**Q4** このシンポジウムのことをどこでお知りになりましたか。

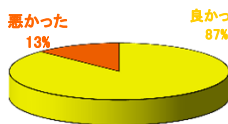


**Q5** このシンポジウムに参加された動機は何ですか。(複数回答可)(有効回答のみ)

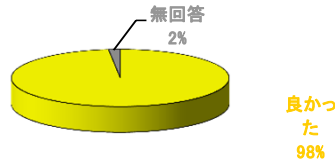


具体的目的の内訳:  
研究科の男女共同参画WGに属しているため勉強のため/男女共同参画の取り組みについて知りたかった/男女共同参画のさきがけとして東北大の取り組みを知り、岩手大学へ波及させたい/岩手大学の男女共同参画推進兼務教員として問題をより正確に理解するため/大学における男女共同参画推進の取り組みについて知るため/東北大学の現状を知りたかった/東北大学の先進的取り組みを学びたい

**Q6** 開催日時について

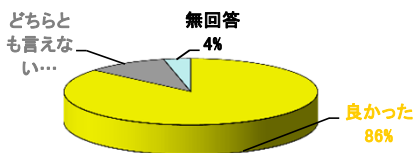


**Q7** 開催場所について

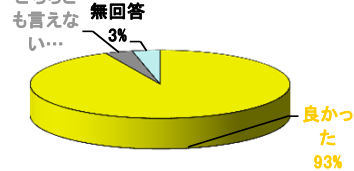


**Q8** シンポジウムの内容について

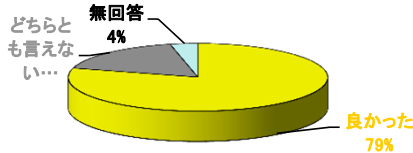
【受賞・成果報告講演】



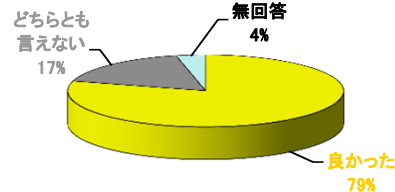
【特別講演】



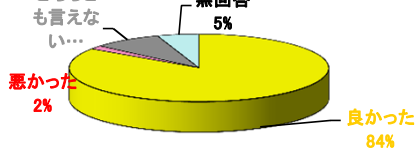
【ジャンプアップ事業について】



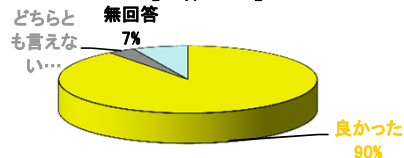
【実態調査WGアンケート結果報告】



【パネルディスカッション】



【全体として】



## Q9 内容についての感想(抜粋)

- ※ こういう話を聞いたことがなかったので、新鮮でした。勉強になりました。
- ※ 数年前より内容がよかった。また、若手女性(学生さん?)が増えた。
- ※ 受賞・成果報告講演については、少し時間が短かった。
- ※ 問題点・考えさせられることが多々ありました。すぐに解決できないことが多いですが、問題点を認識できる機会があったのはよかったです。
- ※ どれも大変興味深い内容でしたが、それぞれ更に詳しい内容が聞ければと思いました。時間の関係だと思われませんが…。
- ※ 司会の言葉の使い方が悪い。
- ※ 大変興味深いお話がたくさん聞けました。しかし、一部の方は話すスピードが速く、資料の文字が小さく、よく理解できませんでした。
- ※ 男女共同参画社会というと理系の女性支援に目が行きがちですが、文系でもやはり支援が必要ということ、また、女性社会への男性の参入ということについても、考えていかなければいけないことが、知れてよかったです。
- ※ 参加者からの質問時間がもっとあってよかったのではないかな？
- ※ 統計的な資料もたくさんあったので、とても勉強になりました。
- ※ 男女共同参画という言葉はよく聞かれますが、じっくりと講演を聞き考えることはなかったので、非常に有意義な時間でした。
- ※ 東北大学が男女共同参画を積極的に推進していることを知り、今後も東北大学ならではの方法で推進してほしいと思う。
- ※ 盛りだくさんで少々聞き疲れしました。登壇者に学生がいても良いのでは？
- ※ 大変参考になりました。ありがとうございました。
- ※ 実態調査WGアンケート結果がもう少し詳しく(大きいスライドで)見たかったです。
- ※ 全体的に取り組んでいる仕事は素晴らしいのに、知られていないのがもったいないと思った。興味がある人だけが知っていればいいのではなく、知ってもらって逆に興味を持ってもらえなければ社会はなかなか変わらないと思う。
- ※ 様々な視点から男女共同参画に関するお話を聞いて非常に面白かった。ただ、会場のサイズに対してスライドの文字が小さすぎることがあったように思う。
- ※ 今まで考えていた以上に、大学で女性が研究を続けていくには厳しい状況なのだと感じました。制度を整えていくと同時に、大学や男性教員の意識改革が必要だと思いました。
- ※ 育児・子育て制度の男性取得率が低いとありましたがこれは共働きなのかどうか知りたかった。
- ※ 具体的に現場の意識改革をするには何をしたらよいかを考え、そして実行すべきであると思う。
- ※ 両立支援策が、男性は仕事、女性は仕事(研究)も家庭もと負担が増えることになってはいけないというのは忘れてはならない。非常に重要だと思った。
- ※ 去年より、講演内容がシンプルでとてもわかりやすかった。東大や日大など、他大学の男女共同参画の取り組みが聞けて大変参考になった。
- ※ 女性の幸せ、ジェンダーマイノリティとしての幸せ(将来エンジニアになりたいため)について考えさせられる、大変有意義なシンポジウムでした。
- ※ 東北大学が今後目指す姿が少し分かりました。女性研究者が少ないことは悪いことなのだろうか？と少し思います。どうして女性研究者が少ないかを考えて、それが何か大学におけるマイナス面からくるものだとすれば改善すべきだとは思いますが、本当に好きなことなら、女性が少なくとも研究者になろうと思う人はいると思います。その人が望んだときのための受け入れ体制は大切であると思います。ただ、女性の立場(育児休暇)などを考えて下さり、ありがとうございました。
- ※ 女性視点だけでなく、国際的な視点かや男性視点から男女共同参画について考えるよい機会でした。
- ※ 時間が短く詰め込み過ぎの印象は否めない。仕方ないのかなあ～とは思いますが…。
- ※ 男女共同参画というと女性に焦点が当てられがちだが、その社会や環境に応じて男性の支援も充実させなければならぬことが分かりました。また、女性の教員数をただ増やすだけでは、「真の」男女共同参画の実現には至らないことから、この活動の難しさも実感しました。
- ※ 様々な視点からの講演があり、とても参考になった。
- ※ 大変参考になりました。
- ※ 男女共同参画が何故必要なのかについて、自分なりの考えをまとめる上で参考になる話を聞くことができた。
- ※ 社会における男性・女性の立場の現状を知れて、興味深かった。
- ※ このような問題について、深く考えたり、従事している方々のお話を聞く機会はなかなかないので、興味深かった。
- ※ 大学の取り組みを知ることができてよかったです。
- ※ 沢柳賞受賞者の研究発表内容がとても興味深かったです。また吉成先生の実態調査のアンケートが非常に興味深かったので、もっと詳細な内容を伺いたかったです。
- ※ 志の高さが、キャッチフレーズ「三度さきがけを目指す」に現れていた。しかし、実態はなかなかであることを知る。なぜ学内でこれほど知られていないのでしょうか。

- ※ 大変分かりやすいご説明。講演者・パネリストが短時間の中、凝縮した内容をお話され、大学全体として積極的な取り組みが行われていることに敬服いたします。
- ※ 女性留学生として非常に役に立つシンポジウムだと思っている。東北大学では、このような男女共同参画の活動を通して、女性研究者に関する支援制度がよく理解した。これから研究以外のキャリア計画や子育てなども安心。

## Q10 男女共同参画に関連したシンポジウムで、希望の企画(抜粋)

- ※ 保育問題、男子学生の逆差別問題、パートナーとの同居問題
- ※ 東北大学のこうした取り組みがより広く市民にも伝わるような工夫をお願いしたいと思います。
- ※ 若手の研究者(女性・男性ともに)の意見を発表する場(プログラム)があると尚良いと思いました。これからの教場の環境づくりのためにも重要だと思います。
- ※ 学部・大学院学生・またはPD向けの女性研究者ロールモデルによるセミナー
- ※ 実際に研究や教育を続けている30~40代の女性研究者の具体的な話が聴けるような機会があるととても参考になります。
- ※ 女性留学生・研究者の育児環境についてのプロジェクトなど。育児・研究の両立に取り組む奨学金制度など。
- ※ ライフワークバランスについての事例、子育て経験について女性の先生方にお話しいただきたい。
- ※ 各部局の状況を議論し合う企画。学生の考えを聞くような企画。
- ※ 発表を聞くのは十分に面白かったが、もっと学会のポスター発表みたいに1対1で研究者と話を聞けたりすればよかったと思った。
- ※ 女性教員、企業で働く女性(理系OG)との懇談会を設けて頂けますと幸いです。
- ※ 女性自身の意識について(養ってもらいたいのか、自立していききたいか?)
- ※ ホームカミングデーのような機会に是非男女共同参画をテーマにしてほしい。男女共同参画が特殊なテーマにならないように。
- ※ 「震災復興と男女共同参画の関連」と大学の果たす役割
- ※ もう少し小規模でローカルな(各部局ごととか)企画もあったら面白そう。
- ※ 学生の視点、立場における男女共同参画の阻害要因の分析、提言などの企画があれば面白いと思います。
- ※ 本シンポジウムでは「帝国大学初の3名」「国立大学初」と言われるが、不正確ではないでしょうか。「日本の大学で初」に統一されるべきであり、それが正確だと思います。
- ※ 外国人女性の精神的な健康の関心(孤独症など)、研究と育児のバランス、女性研究者の心身健康(運動不足)

## Q11 東北大学における男女共同参画推進、または学問・教育におけるジェンダー問題についての意見(抜粋)

- ※ キャリアシンポジウムなどのOB・OG・企業さんの講演で、女性が少ないと感じます。
- ※ 実力があれば男女は関係ないのでは。
- ※ 東北大学の男女共同参画の取り組みについてはその歴史や内容について承知していました。ぜひ他機関との連携なども積極的に取り組んで頂ければと思います。
- ※ 東北大学は先手を切って女性の雇用・社会進出推進への取り組みを行ってきていて、それは、学内はもちろん学外の方々にも広く浸透しており、私の周りでは女性研究者が理解される場が多いので、大変助かっています。
- ※ 理系だけでなく、文系に対する支援も必要かと思います。
- ※ 奨学金は一番の直接的な方法であり、仕事しながら子育ても研究もということは一番大変ですので、これを確保できたら安心して研究者になれるのではないかと思います。
- ※ アンケート結果にもあるように、男性が不平等を感じるほど手厚い女性支援があるにも関わらず、その割に女性の満足度も低いように感じます。全体で見てプラスとなる推進事業を望みます。
- ※ 研究と子育ての両立支援体制として、保育園の設置(各キャンパス)、病中保育、出張の際の夜間保育、日祝日保育の必要性を感じている。
- ※ 日本再生の上で、gender equity genderinitiativeへのより積極的な海外動向を知りたいと思いました。
- ※ 将来を考えると、日本全体、大学(特に理工系)のワークライフバランスの根本的な見直しが必要だと思う。夜中まで実験している男性と比べるとフェアではないだろう。古い日本型の労働形態が改革されるべき。
- ※ 私は学部の頃違う大学にいましたが、東北大学は女子の割合も多いと感じましたし、男女共同参画に対する意識も高いと感じました。
- ※ 日本で初めて女子学生を受け入れただけあって、とても活発に問題解決に向け取り組んでいる印象です。私自身も一人の女性としてしっかり考えたい。
- ※ これからも日本で男女共同参画推進のさきがけとなってほしいと思う。

- ※ 関わっている人が固定していると思う。部局からの委員をできるだけ多くの人が経験するように。
- ※ 既婚・子どものいらっしゃる女性研究者や教員と対話のできるコミュニティがほしい。もしくはあるのであれば、広く周知してほしいと思います。
- ※ 仕事内容はいいと思うが、周知方法がよくないと思う。実験にベビーシッターなどを使いたい人もいると思うが、補助してもらえると知っている人はほとんどいないと思う。使いたい人が使いたいときにすぐ知ることができるように事務局とか相談窓口とかを設置した方がよいのでは？
- ※ 研究をサポートする制度は必要であると感じるが、「女性だから」研究の結果が取り上げられるというのは違うと感じた。今回このシンポジウムに参加したことで多くの活動を知ることができたので、今後上手く活用していけたらと思う。
- ※ 二度のさきがけを経て、このように男女・文理問わず集まって三度目のさきがけを目指す東北大学は日本の中では進んでいると思います。女性比率が(博士学生と比べて)低いなど、まだ改善できる箇所があり、改善できるパワーもあると感じました。
- ※ 女性教員が産休・育休をとった場合、そのサポートがないと思う。職種によってはサポートの有無に差があり、比率に差があるかもしれない。
- ※ 良い制度が多くあるので、もっと周知をしっかりと頂ければ、良くなるのではないかと思います。
- ※ 旧帝大で初めての女性学部長を出した東北大学にとって、さきがけの機会は三度だけでなく、さらにあったものと思う。日本のさきがけに留まることなく、世界の先駆けを目指して頂きたい。
- ※ 私は保健学系に所属しており、数字的には女性教員の割合が高い部局に位置しているが、それは看護学系に女性教員が著しく多い(元々看護は女性社会である)という背景からであり、その他の専攻とは切り離して考えるべきなのではないかと思いました。現に私の専攻では、女性教員は一人しかいませんので…。
- ※ 東北大学は男女共同参画を早くから推進しているので、これからも男女共同参画の最先端でさきがけを担ってほしい。
- ※ 男女共同参画に対する意見は、人によってそれぞれ異なる。女子だからという理由で無視されたり、評価してもらえなかったりしているのが現状だ。これに心折れずに頑張るには業績で示すことのみ。吉田教授のいうとおり質の高い人間になることを目指すしかない。
- ※ 東北大学ならではの先駆的な取り組みをして頂き、東北地域の大学のモデルとなって頂きたい。色々な有益な情報を出して頂きたい。ネットワークもできればと考えている。
- ※ 男女共同参画の必要性を他人に納得してもらえぬ理屈を科学的に作り上げる必要性和難しさを強く感じました。数値目標が一人歩きして目標を達成することが唯一の論拠にならないように気をつけたいと思います。
- ※ 女性研究者として充実した毎日を送っている方のお話をもっと聞きたい。
- ※ 社会に影響のある活動・取り組みにしていけるためには、学内の活動にとどまることなく、企業や経済活動に対して影響のある活動・研究・提言をしていただきたいと思います(期待しています)。また、東北地方にとどまらず、全国に影響のある活動を行って下さい。東北復興の灯を絶やさないためにも、この3年の東北大学からの発信が非常に重要であり、有効だと思います。
- ※ 「さきがけ」の伝統を若い方に意識的につないでください。
- ※ 理工系だけでなく、法学等全学の専門家が結集していて素晴らしい。今後ともご指導お願い致します。